

鈴鹿山脈北部、大君ヶ畑地区にみられる天然ダム湖堆積物

Land Slide Dam Deposits in the Ojigahata area, Northern Part of Suzuka Mountains

阿部 勇治 [1]; 阿部 美和 [1]

Yuji Abe[1]; Miwa Abe[1]

[1] なし

[1] none

2007年12月、滋賀県多賀町大君ヶ畑の犬上川右岸で行なわれていた護岸工事の際に、未固結堆積物からなる軟弱な地層が発見された。この地層は、主に細粒な堆積物で構成され側方への連続性が良く、控えめに見積っても数m以上の層厚がある。現在、大君ヶ畑付近を流れる犬上川は山間を流れる溪流で、このような堆積場としての立地と、観察された地層の層相は調和していない。演者らは、この地層がどのような性格の物かを明らかにするため、層相の観察と含まれている大型植物遺体の分析、地形学的な検討を行なった。分析と検討はまだ十分とは言えないが、ここでは予察的な報告を行なう。

この地層は、大君ヶ畑集落を流れる犬上川の河床、およそ500mの範囲に露出している。シルト～シルト質細粒砂、粘土からなり、パラレルラミナが発達している層準もある。分級は良好で、観察可能な範囲（数10m程度）において各単層の層厚や層相はあまり変化せず連続性も良い。ラミナ状に植物片が濃集している部分が見られ、葉や種子などの大型植物遺体や昆虫化石も含まれている。また、木片やルートも散在的に見られる。これらの特徴は、この堆積物が水深の比較的浅い止水域において堆積した事を示している。河川勾配の急な山間地で広い止水域が形成されるには、大規模な陥没や地すべりによる河川のせき止めなど、突発的なイベントの発生が有力な要因となる。分布域のさらに下流側には、ゆるい谷地形から舌状の起伏へと変化する地すべり地に特徴的な地形がみられ、踏査の結果、崖錐性堆積物が河床にまで達しているのが観察された。これらのことから、大規模な地すべりが発生して犬上川がせき止められ、そこに形成された天然ダム湖に湖成堆積物が堆積した状況が推定される。

一方、堆積物に含まれる大型植物遺体を分析し、木本を約10種類、草本を約20種類確認した。この堆積物中には木炭片や、栽培植物であるソバの果実が含まれることから、歴史時代以降に堆積したものと考えられる。産出した植物遺体の種組成は、堆積物周辺の植生及び上流域の植生を反映しやすい。今回の場合、オトコエシ、キブシ、キハダ、タニウツギ、イヌシデなどの山地性の植物と共にアカザもしくはシロザ、カタバミ、カナムグラ、エノコログサ属、ハコベ属などの人里の植物を多く産出したので、当時、山地に隣接する人里が存在したと考えられる。しかし、水によって運ばれやすい水草や、水辺に生育する植物の種子・果実がほとんど含まれていないという特徴もあり、湖成堆積物に含まれる遺体群としては特異な傾向を示している。